

## 2017年2月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500 hPa 高度をみると、ヨーロッパ北部、東シベリア～アラスカの南で正偏差となった。ヨーロッパ北部から東アジアにかけて波列パターンが卓越し、西シベリアで負偏差となった。太平洋の30°～40°N帯では東西に伸びる帯状の負偏差域がみられた。亜熱帯ジェット気流は北アフリカ～中東では平年の位置の南寄りを、南アジアでは北寄りを流れた。850 hPa 気温は、中央シベリア～東アジアで高温偏差となった。帯状平均した東西風をみると、北極域の対流圏では西風偏差、上部成層圏では東風偏差だった。帯状平均した対流圏全球・中高緯度の気温は引き続き正偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、南シナ海～フィリピン東方、南太平洋収束帯付近で活発、南インド洋、日付変更線付近～北太平洋熱帯域の東部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、太平洋～大西洋～インド洋を東進した。対流圏下層では、インドネシア付近で低気圧性循環偏差、太平洋中部で高気圧性循環偏差がそれぞれ南北半球対でみられた。対流圏上層をみると、インド洋北東部で低気圧性循環偏差、日本の南東海上で高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は0.0だった。

### 世界の天候

2017年2月の世界の月平均気温偏差は+0.44°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。2月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.80°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東シベリア南部～中央シベリア南東部で異常高温となった。
- 米国東部～メキシコ東部で異常高温となった。
- 米国北西部で異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

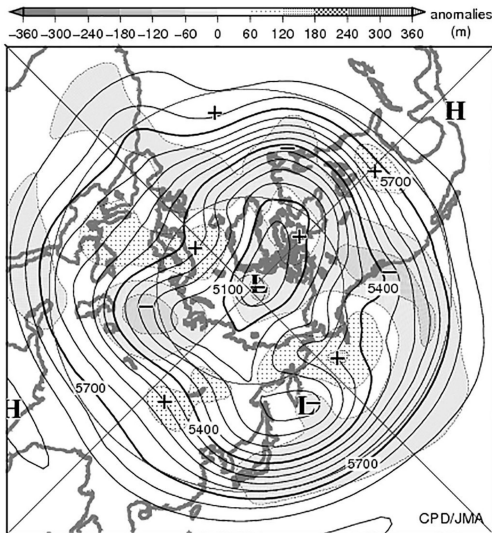
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

※ 2016年の異常気象・天候や気候系の特徴をまとめた

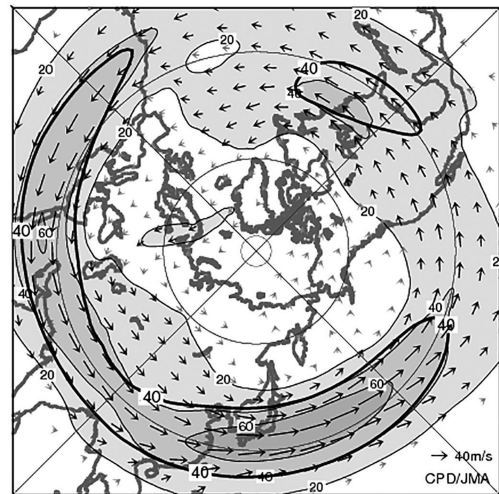
「気候系監視年報2016」を公表しました。気象庁ホームページからご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/nenpo/index.html>



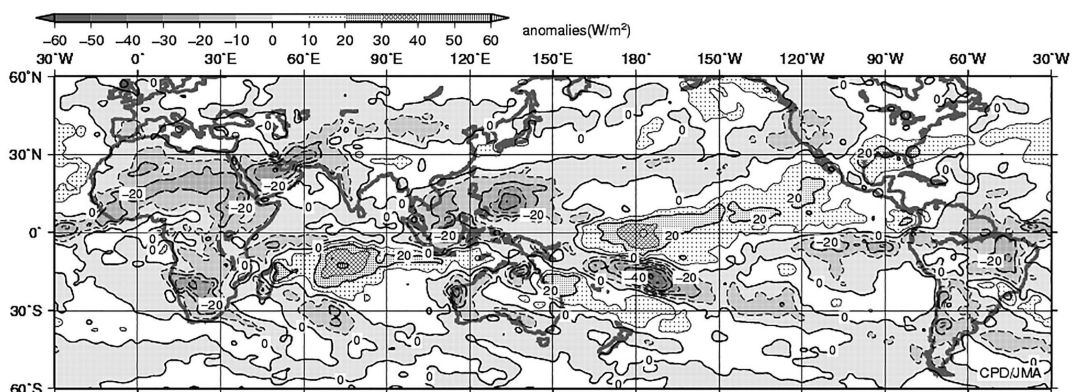
2017年2月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

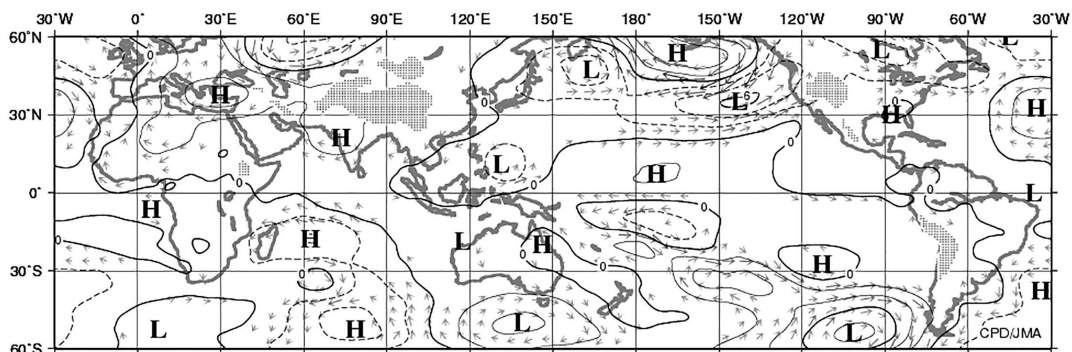


2017年2月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

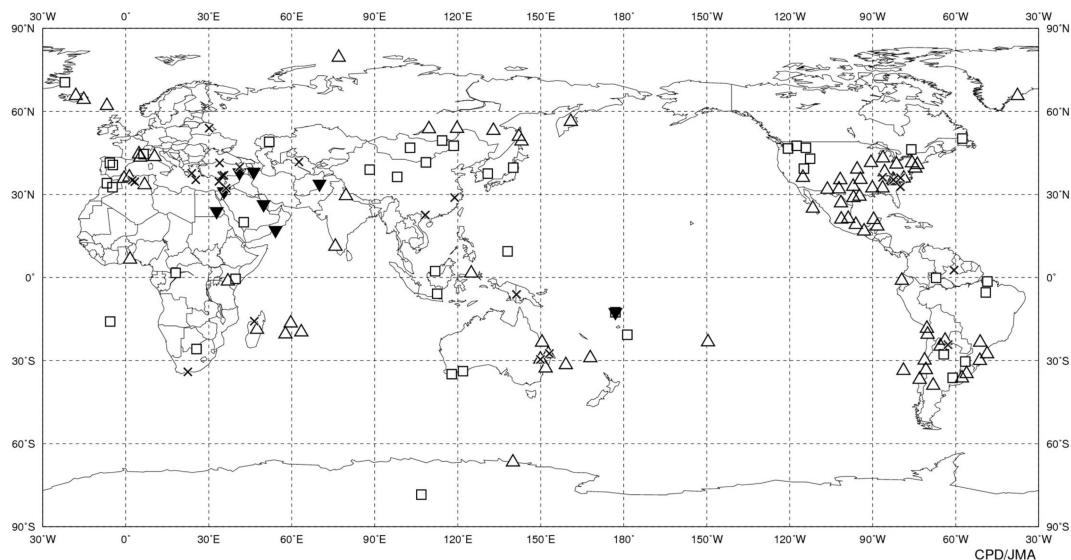
等値線間隔は20 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は40 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2017年2月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋  
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年2月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。